

YKK

Little Parts. Big Difference.®



YKK FASTENING AWARDS
GRAND PRIX
2001-2020

The 1st GRAND PRIX



Kazuya Sasaki 「変動」

作者：佐々木 一哉
(文化服装学院)

使用アイテム：ウレタンコード

無数につなぎ合わせたウレタンコードをワンピース前面にあしらい、ユニークな素材感と動きを与えた。凸レンズのように柄をゆがませ、光を当てると水面のように輝く。周囲の色を鏡のように反射するなど、シチュエーションによって多彩な表情と動きを見せる。

The 2nd GRAND PRIX



Yuta Ishikawa 「YKK で楽しくマリン」

作者：石川 裕太
(エスモードジャパン東京校)
使用アイテム：WEBTOUCH®

コットン地のワンピースにしなやかな面ファスナーのWEBTOUCH®を配し、2つの洋服を一体化させるというユニークなコンセプトから生まれた作品。また、ワンピースのサイドから裾にかけて配されたファスナーを開閉させるとシルエットが変わる工夫も。

The 3rd GRAND PRIX



Yoshihiko Ishibashi

「リュックドレス」

作者：石橋 善彦

(東京モード学園)

使用アイテム：ニューデザインシリーズ



プラスチックパーツのニューデザインシリーズを活用し、リュックがドレスに変身するという奇抜なアイデアが高く評価された作品。色をブラックにまとめ、カジュアルなリュックをスポーティかつエレガントなドレスに変化させた。

The 4th GRAND PRIX



Shunsuke Sakai 「無題」

作者：酒井 俊介
(千葉工業大学)
使用アイテム：EXCELLA®

髪の毛のようにスタイルをアレンジできる帽子というコンセプトのもと生まれたユニークなヘッドアクセサリー。EXCELLA®を並べて縫い付けたもので面を構成し、開くことで面が分割し、独立する。着用者のアイディア次第でアレンジは自由自在だ。

The 5th GRAND PRIX



Hajime Ono 「BACK BONE PACK」

作者：小野 一
(文化服装学院)
使用アイテム：軽量バックル、
EXCELLA®No.2

人間の体そして魂を守る骨—
そんな機能やデザインをバック
パックに置き換えた作品。背面の
3つのレザーパーツは軽量バック
ルで留めることで、骨が曲がるよ
うにくねくねと可動する。
アイデアのおもしろさとそれを高度
に昇華した点が高く評価された。



Takuya Matsushima
「表れる線」

作者：松島 拓哉
(エスモードジャポン東京校)
使用アイテム：VISLON® 両端開

「ファスナーが柄の一部となる」がコンセプト。VISLON®を2本重ねて縫い、表のファスナーを開くと中のファスナーが青いラインとなって現れる。さらに中の青いファスナーを開くとボーダー柄の生地が見え、柄とシルエットの変化に富んだ一着となっている。

The 6th GRAND PRIX



Akie Kikuchi 「Octopus bag」

作者：菊地 暁絵
(文化服装学院)
使用アイテム：PERMEX®

第5回から新設された「ファッショングッズ部門」のグランプリは、さまざまなスタイルで体に絡みつかせることができるバッグが受賞。タコの吸盤に見立てた PERMEX® の留め方を変えることで、タコのように自由自在に変化し楽しむことができる。



Misato Sugiki 「開華 - 花束」

作者：杉木 美里

(豊橋ファッション・ビジネス専門学校)

使用アイテム:アイレットワッシャー、
フレックスニットテープファスナー

コンセプトは「華が開華するという服の変化」。フレックスニットテープファスナーを閉じた状態では2輪の花、ファスナーを開いてアイレットワッシャーに通したりボンを引き上げると満開に咲き誇る花となる。そして、中に着用したオレンジ色のスカートが見える仕組み。



Toshitami Shiomi 「Colored anthem...」

作者：塩見 俊民

(マロニエファッションデザイン専門学校)

使用アイテム：EXCELLA® ライト、
アルミボールチェーン、リベットバー、
アイレットワッシャー

インドのタージマハルに着想を得たニットドレス。アルミボールチェーンを編み込み、その他アイテムを装飾に使用した。「古くからある編み物という手仕事に新しいもの（素材）を加えていく」という言葉の通り、ニットレースと使用アイテムが美しく調和する。



Jun Tawarayama
「グレーディングスーツ」

作者：俵山 純

(パンタンデザイン研究所)

使用アイテム：VISLON®No.15、ez-TRAK®、
コードストッパー、アイレットワッシャー

ひとつのパターンをもとに大小の
型紙を作るグレーディング技術を
応用することで、3サイズに対応
できるスーツ。縦に配された
VISLON®No.15を開くと大きく
広がり、さらに内側の ez-TRAK®
を開くと最大限のサイズとなる。
シルエットの変化を楽しめる一着。



The 9th GRAND PRIX



Sangmi Kim
「花火」

作者：金相美
(文化服装学院)

使用アイテム：EXCELLA®

黒いファーが夜空を、EXCELLA®のエレメントが夜空に輝く花火を表現。ヒールやステッチの赤、そしてEXCELLA®のゴールドが美しく女性の足を彩る。簡単に着脱できるように、踵にファスナーをつけるなど、実際の商品に近い完成度の高さも評価された。



Makoto Ogawa 「Element」

作者：小川 真
(文化服装学院)

使用アイテム：FLATKNIT®、SOFIX®

テープスナップの SOFIX® を編み、各所に FLATKNIT® をつけた生地を組み合わせることで好きな形を楽しめるという、新しい服のあり方を提案する作品。「既成概念からの解放」をテーマとし、シンプルさを追求する考えが評価につながった。

The 10th GRAND PRIX



Iola Wang 「put on your jeans」

作者：王 嘉嘉
(文化服装学院)

使用アイテム：EXCELLA®、
アルミボールチェーン

デニム柄を型押しした馬革に滑らかな光沢の EXCELLA®が映える、デザイン性に優れた作品。

高いファッション性を感じさせながらも、アルミボールチェーンを使用したウォレットチャームをつけるなどディテールにも凝り、おもしろさが詰まった一足だ。

The 11th GRAND PRIX



Miki Takagi

「副資材の装飾」

作者：高木 美希
(文化学園大学)

使用アイテム：EXCELLA®、
グログランテープ、タックボタン、
PERMEX®、アイレットワッシャー、
LENART®

遊牧民にとって、“身に着けて持ち運ぶ装飾具は財産である”という考えのもと、バッグに変化するベルトや、ファスナーなどの装飾で「砂漠の遊牧民」というコンセプトを表現。服を大切にしない昨今の風潮に対して、民族衣装を通じて思いを伝える意図も。



Miho Taniguchi
「アテナ」

作者：谷口 美穂
(文化服装学院)

使用アイテム：EXCELLA®、
リベットバー

鎧をモチーフにしたニーハイブーツは、賢さと強さを持った新時代における女性らしさを表現した一足。脚の内側には EXCELLA®をつけ、脚の外側とひざを覆うカバー、そして甲をくるむ部分は、染色してヤスリで光沢を出したヌメ革を使用した。



Eriko Yamamoto
「瓦屋根」

作者：山本 恵里子
(ドレスメーカー学院)
使用アイテム：METALLION®、
グログランテープ、リバットバー、
BELNAP®、アイレットワッシャー

キラキラと輝く METALLION®
とグログランテープを織り交ぜ、
日本の瓦屋根の無機質な曲線の
美しさを表した。さらにリベット
バーと BELNAP®、アイレット
ワッシャーで瓦屋根の凛とした
勇ましさをプラス。落ち着いた
色味と独特のフォルムも印象的だ。



Dongsung Cho 「アフリカ旅」

作者： 曹 鳳成
(文化服装学院)

使用アイテム：EARLY DAYS、METALUXE®、
グログランテープ、リベットバー、BELNAP®、
PERMEX®、アイレットワッシャー

自然をそのまま守り続けるアフリカ先住民の伝統文様と鮮やかな色彩に注目した作品。アフリカの生活に必要不可欠とされる水牛をフラップのモチーフにし、鮮やかなグログランテープをつなげ、アフリカを旅する旅行者用バックパックを完成させた。



Chiaki Adachi 「枯山水」

作者：安達 千晶
(ドレスメーカー学院)
使用アイテム：Qメイト®、
グログランテープ

コンセプトは「日本文化から強く美しい現代女性をイメージすること」。水を使わずに砂や石などで山水を表現する枯山水のように、ひとつの観念的世界を創造させた。グレーのグログランテープで石を表現し、立体的に作り上げたトーンが美しい。



Naotoshi Seki

「デジタルコネクション」

作者： 関 真理

(文化服装学院)

使用アイテム：簡易分離ファスナー、
VISLON®No.10、グログランテープ、
超軽量バックル

超加速型デジタル社会となっている現代にインスパイアされ、キーボードを作品に張り付けることで、デジタル製品に囲まれた現代人をイメージ。中央に配されたグログランテープで作った目のモチーフは、ネットの向こう側の人間を表し、ライトが点灯する仕組み。



Eri Umegaki
「～ stone ～」

作者：梅垣 恵理

(大阪モード学園)

使用アイテム：グログランテープ、
アイレットワッシャー

それぞれ形がユニークな岩に人間の個性を置き換えてドレスに昇華させた。パンチングと、布を縫い縮めて模様を浮かび上がらせるスモッキング技術を組み合わせてできる独特の凸凹が、人間の個性を表現。手をかけながらもシンプルに作り上げた点も高評価に。



Naoya Hashimoto
「ミリタリーホールド」

作者：橋本 直也
(文化服装学院)

使用アイテム：Old American®、Qメイト®、
グログランテープ、Sharpn'Loc®、タックボタン、
リベットバー

Old American® のコットンテー
プ / プレススライダーから感じら
れる 1900 年代半ばのアメリカ
の雰囲気からミリタリーを連想
し、機能美を追求。バッグを左右
に配された Sharpn'Loc® の機能
を生かし、物を入れるのではなく
「ホールド」することに注目した。



Hidetaka Kobayashi
「Globe trotter」

作者：小林 秀鷹

(エスモードジャポン大阪校)

使用アイテム：簡易分離ファスナー、
メッシュファスナー、LC-PS7、リベットバー、
PERMEX®、SOFIX®

世界を飛びまわるグローブ Trotter が背負うバックパックをイメージし、アクティブな美しさを表現。フードに変化する部分には素早く取り外せる簡易分離ファスナーを、ポケットには無駄な凸凹のない PERMEX® を選ぶなど、機能性とデザイン性を両立させている。



Tsugumi Eikawa
「BOM」

作者：永川 承美
(文化服装学院)

使用アイテム：

AquaGuard® ツートン、LB-Q

ファスナーを開くと拡張し、ハンドバッグからバックパックに。
心臓救命装置のAED(自動体外式除細動器)をモチーフにデザインし、拡張する部分にはシワ防止のためポリ塩化ビニールを使用。
黄色のレザーと黒のファスナーのコントラストが目を引く。



Akari Nakano 「for when. . .」

作者：中野 東日里
(東京モード学園)

使用アイテム：再帰反射ファスナー、
LENART®、SOFIX®

「自分の身を守る事」が皆を守る事に繋がるのではないかと考え、防災頭巾・シュラフ・ポーチに変化する軽くてお洒落に着られるコート。衿の外回りの再帰反射ファスナーを閉めることで防災頭巾に変化。ウエストの切り替え部分は、裏側でSOFIX®等で留められており、1段ずらして付けることで寝袋に変化。外して膝掛けとして活用することもできる。



Kang Hyung Ku 「トランスフォーマーコート」

作者：KANG Hyung Ku
(文化服装学院)

使用アイテム：METALUXE®、
PERMEX® エキストラタイプ、
アイレットワッシャー

各アイテムに取り付けられたファスナーの組み合わせで、コート、セットアップ、オールインワンと3パターンに変化する作品。ジャケットに1つ1つ丁寧にキルティングを施したうろこを付け、存在感のある、唯一無二のウェアに仕上げることができた。

The 17th GRAND PRIX

Wang Qipeng
「遊ぶ」

作者：WANG QIPENG
(文化服装学院)
使用アイテム：樹脂カラビナ、
VISLON®ネオンカラー、
VISLON®No.10

毎日学業や仕事に追われ、いつからか心から「楽しい」と思えなくなってしまった。子供の頃のように楽しく「遊ぶ」ことが出来たらと願い作品を制作。ルービックキューブとレインボーを題材にデザイン。大容量に収納でき、多数のファスナーと樹脂カラビナを用いて使い勝手を向上。いつでも旅をする楽しみがいっぱい詰まったバッグ。

The 18th GRAND PRIX



Kanae Ito 「color」

作者：伊藤 香苗

(名古屋モード学園)

使用アイテム：AUROLITE®、
PERMEX® エクストラタイプ

近年 YouTuber や SNS が社会現象となり、一人一人が自分の個性を出し、自分のやり方で表現を楽しむ。それぞれの唯一無二の個性のカラーからインスパイア。様々なカラー(個性)が社会と共存し、面白いものを生み出されている背景から、型にはまらない衣服を提案。見る角度により見え方の異なる AUROLITE® のように生地も制作。

The 18th GRAND PRIX



Haruki Hijikata Yuma Hosokawa 「靴にも傘を」

作者：土方 春稀・細川 悠真
(ヒコ・みづのジュエリーカレッジ)
使用アイテム：AquaGuard®、
SOFIX®

「靴にも傘を」をコンセプトに、急な雨にも対応できるように甲の部分にポケットをつけ、そこからレインコートが出てくるようにした。レインコートをアタッチャブルにした SOFIX® の取り入れ方に着目してほしい。



Yukina Sugiyama
「3D switch」

作者：杉山 侑己菜

(名古屋モード学園)

使用アイテム：タックボタン、
LENART®

スナップを留めることが立体へのスイッチとなる。簡単に留め位置を変えられる機能を利用し、形を変形させて着用できる。1枚の平面が立体になることで生まれるゆがみや違和感を楽しむ。

The 19th GRAND PRIX



Marino Iwahori

「ORIGAMI “Paper Balloons” BAG」

作者：岩堀 真理乃
(名古屋モード学園)
使用アイテム：EXCELLA®、
QuickFree®、アイレットワッシャー
PERMEX® エクストラタイプ

“楽しく作れる折り紙バッグ” 子供の頃よく遊んでいた折り紙。「紙風船」の折り順をカラフルな親しみのある色で表し、楽しく簡単にできるかわいい折り紙バッグを制作。視覚で直観的に作れるように色で工夫した。



Mikuri Ohta 「ACCEPTANCE」

作者：太田 三稜
(名古屋モード学園)
使用アイテム：樹脂バックル (LB-FR)

パーツ毎に樹脂バックル (LB-FR) を用いて、留めつける箇所、留め付けない箇所の間には『遊び』が生まれる。その“遊び”を生み出すバックルの新しい価値を提案。

The 20th GRAND PRIX

Gou Satake
「AVES」

作者：佐竹 剛

(上田安子服飾専門学校)

使用アイテム：click-TRAK®、
AquaGuard® メタリック調フィルム、
POWERHOOK®、樹脂バックル (LB-S)、
PERMEX® エクストラタイプ

山や日常で起こりうる災害や山岳
遭難。「死」という最悪の事態が
あり得ることを決して忘れてはい
けない。アウトドアでのテクニカ
ルな機能と命を守る機能を日常で
も使えるようファッション性を含
めたデザインに。

